

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(事後評価)

課題名「ニーズ・CSを把握し活用するための技術」

1. 主な所見

- ・所見 : 外部機関との連携もきちんと行われて、より研究精度があがり、連携機関側からみてもよい成果を出している。独立行政上人の研究所である特徴、有利性を生かした研究である。
- ・所見 : 研究論文ばかりでなく、業界、さらには社会全体に対する広報的発表も検討してはどうか。
- ・所見 : 公共的な建築物を設計するにあたっての前提条件の整理には、合理性があると思われる。これを、実証実験によってブラッシュアップしてほしい。
- ・所見 : 建築研究所から生まれた新技術として、自治体等に積極的に展開されることを望む。その際、技術の誤用や混乱が発生しないよう、マニュアルやソフトウェアの整備、技術移植のための工数の確保等、組織的なバックアップ体制を整備することが必要ではないか。
- ・所見 : 学術研究的にも、行政課題に対するソリューションの提供という点でも、建築に関する市場構造の改善という点でも、きわめて有意義な研究が達成されたと認められる。
日本の建築業界の体質を変えるくらいの意気込みで、更に発展・普及させることを検討いただきたい。

2. 主な所見に対する回答

- ・所見 に対する回答 : 今後は国交省以外の機関(自治体など)とも連携を行い、研究成果の発展・普及をはかりたい。
- ・所見 に対する回答 : 一般公表可能なマニュアル・ソフトウェア等を準備した後、記者発表を行いたい。また、建築雑誌等に記事を掲載できるように働きかけることも考えている。
- ・所見 に対する回答 : 本研究の成果に対して、さらに次のような点でブラッシュアップをはかりたい。
 - ・調査事例が増えた後、過去のデータから知見を得るための技術や仕組みの開発、それを前提とした調査方法の改良
 - ・ニーズ調査において、調査対象とすべき人数が多く、個別インタビューでは対応が難しくなった場合の代替法の開発
 - ・ワークショップ型の計画プロセスにおけるニーズ調査法の開発
- ・所見 に対する回答 : 自治体等への展開も視野に入れている。また、マニュアル・ソフトウェア類は、官庁施設整備向けに特化したものを作成しているが、これを一般化したものを作成する。なお、CS調査の解説本を出版する計画はその一環である。
- ・所見 に対する回答 : 建設業界の市場構造・体質の変革という点では、ニーズ調査を含めたブリーフィングを行う職種の確立が重要課題であると考えている。本研究課題の成果を足がかりとして、こうした点も視野に入れ、さらなる発展・普及のために尽力したい。